

事務局／旭川市金星町1丁目1-52

☎(0166)22-2361

<http://www.kyoku-shi.com>

8020を達成するフッ化物洗口

さる5月21日(土)午後2時より道北地域旭川地場産業振興センターにおいて、講師に秋野憲一氏(北海道空知総合振興局保健環境部主任技師)をお迎えし「北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例をどう活用すべきか? ~歯科医療及び学校・施設関係者に期待される役割とは~」との演題で、歯科医療保健、幼稚園・保育所、学校保健及びPTA関係者を対象とした公開講演会が開催されました。

主催は旭川歯科医師会で、共催として上川中部地域歯科保健推進協議会、北海道歯科衛生士会旭川支部、後援として旭川市教育委員会、旭川市PTA連合会にご協力を戴きました。

講演会の内容は8020推進条例が制定された背景である道民の口腔健康状況について、「子供の虫歯が全国でワースト3」(その後平成22年度はワースト2に!)であったこと、道教育委員会の調査で「道内の子供は全国平均に比べムシ歯が多く、視力も劣る」こと、道民は「全国平均に比べ5~10歳程早く歯を失っている」ことが挙げられました。

また高齢者の統計において「歯の数が少ない程、健康悪化の危険度が上がる」こと、「かかりつけ歯科医師があると累積生存率が高い」ことが判っているとの事です。

「虫歯になったら治療すれば良いだけの話」という考えもありますが、風邪や骨折などとは違い、「虫歯は治療しても元に戻らない病気」です。虫歯を削って被せたとしても10年以内に半分は再治療になる事が統計的に判っています。そして治療を繰り返す度、歯は消耗して、やがては抜歯という流れは私たち歯科医が日常よく遭遇するパターンです。

以上の事から、生涯にわたり充分な生活の質を保持できる歯の数「8020(ハチマルニイマル)=80歳になっても20本以上の歯を残す」を達成するためには、子供の頃から「有効な虫歯予防法」を行う事が重要となります。有効な虫歯予防法とは「科学的根拠のある虫歯予防法」のことで「フッ化物(フッ素)」、「シーラント(歯科医院で虫歯になりやすい歯のミゾを埋める方法)」が代表的です(米国予防医学研究班の資料より)。

虫歯予防も「個人で行う虫歯予防」と「集団で行う虫歯予防」があります。よく「虫歯予防は各個人が自己責任で行えば良いのでは」という意見を耳にします。しかし「個人で行う虫歯予防」は追跡調査により継続性が低い事が判っていますし、各家庭の健康観の違いにより「健康格差」が生じるなど限界があります。「集団で行う虫歯予防」は一旦システムを作ってしまうえば強い継続性を持つ事、集団を構成する個々に平等な予防効果が期待できる事、個人の家庭環境に左右されにくい、などの事より「集団で健康の質の底上げ」ができ「集団内の健康格差を小さくできる」優れた方策です。

学校など、集団で虫歯予防を行うには「フッ化物洗口(フッ化物を使ったブクブクうがい)」が現場の負担が小さく、個人の努力やスキルによらず平等に効果を望める事、また費用対効果の面でも最適な方法です。

現在、旭川市では一昨年10月の旭川市議会における「学校等におけるフッ化物洗口を推進する決議」をうけ、「旭川市内の全小学校におけるフッ化物洗口」の実施を目指しています。旭川歯科医師会も旭川市民の健康に有益であるとの認識から、この方策を支持し協力しております。どうか市民の皆様もご理解とご協力をお願い致します。